

# 『ふるさと創造計画』企画書

3年 3組 21番 (氏名) 関谷 聡実

講座名

I

講座テーマ

伊予市の自然・農林水産業

## 《テーマ》

- 伊予市の自然の魅力をも味わえるえひめ森林公園に!

## 《ふるさと伊予市の現状の問題点》

- えひめ森林公園の施設利用者が少ないこと。また、利用する人のほとんどは一部の施設しか訪れていない。(キャンプ場・森林学習展示館など)
- 施設が古いこと。アスレチックコースがあるけれど、古くなって使用するのには危ないものやもう壊れて使えないものもいくつかある。また、頂上にある展望台も古くなっており、せっかく伊予市の町なみや海が一望できるのにあまり利用されていない。
- 自然にあまり関心のない人が多いのではないかと。少しでも多くの人に、伊予市の風景の良さを感じてもらいたい。(収集した資料は2枚目に添付)

## 《企画の目的》

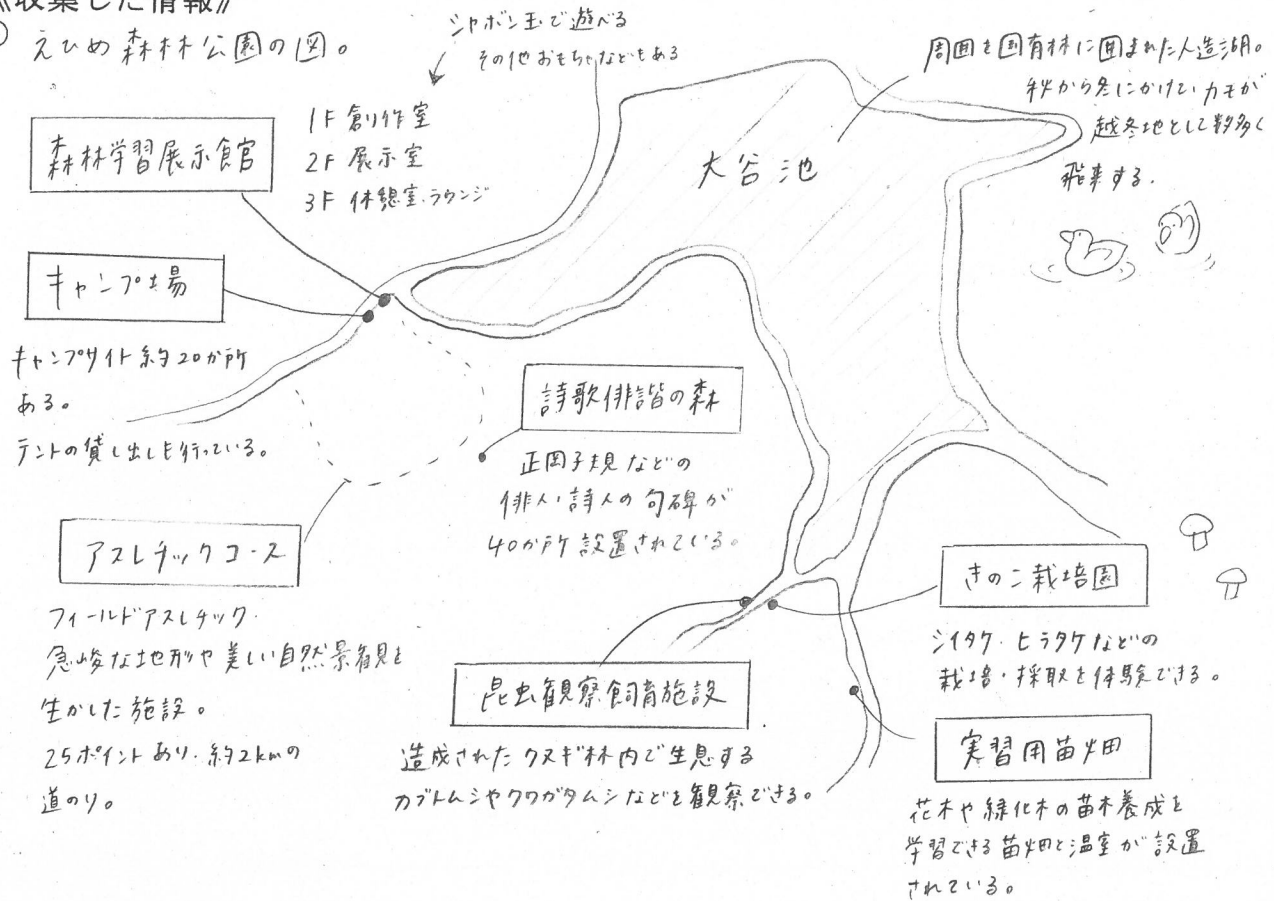
私は、休日にときどき父と谷上山に行きます。その時にいつも感じていたのが、休日なのに人があまり多くないということです。せっかく遊ぶ施設もあって、自然に恵まれた良い所だから、もっとたくさんの人に来てもらい、伊予市の豊かな自然を知ってもらいたいと考えました。そして、このえひめ森林公園の存在を知らない人も興味をもち、一度足を運んでみようと思ってもらえるような場所にするために企画を立てました。実施することで、伊予市の美しい自然の風景を、たくさんの人に好きになってもらいたいと思います。

## 《主なポイント》

- ① アスレチックの種類を増やす、古いものは修理する
- ② 自然を利用した工作や植林などのイベントを行う
- ③ 実習用苗畑、昆虫観察飼育施設で見学、販売ができるようにする
- ④ アスレチックの途中、ウォーキング、ランニングコース途中の休憩所を増やす
- ⑤ 頂上の展望台を美しくする、頂上までの案内看板を設置する

《収集した情報》

○ えびめ森林公園の図。



○ 施設利用について

※ 管理の方に質問。(10月の土曜日)

- ・ 今日の宿泊は? 5組・20人くらい。
- ・ アスレチック利用は? 30人くらい。
- ・ 研修は? 40人くらい。
- ・ いつがピーク? 5月の連休が一番人が多し。
- 泊まる所がいっぱいになるくらい。
- ・ いつが少しい? 1月~2月の寒い日人が少しい。
- ・ 年間では? 9万人くらい。

※ インターネットより。

森林公園  
年間利用者数

23年度	24年度	25年度	26年度
89000人	95000人	98000人	98000人

アスレチック  
年間利用者数

23年度	24年度	25年度	26年度
3893人	5539人	5660人	5420人

《具体的な企画内容》

① アスレチックの種類を増やす・古いものは修理する

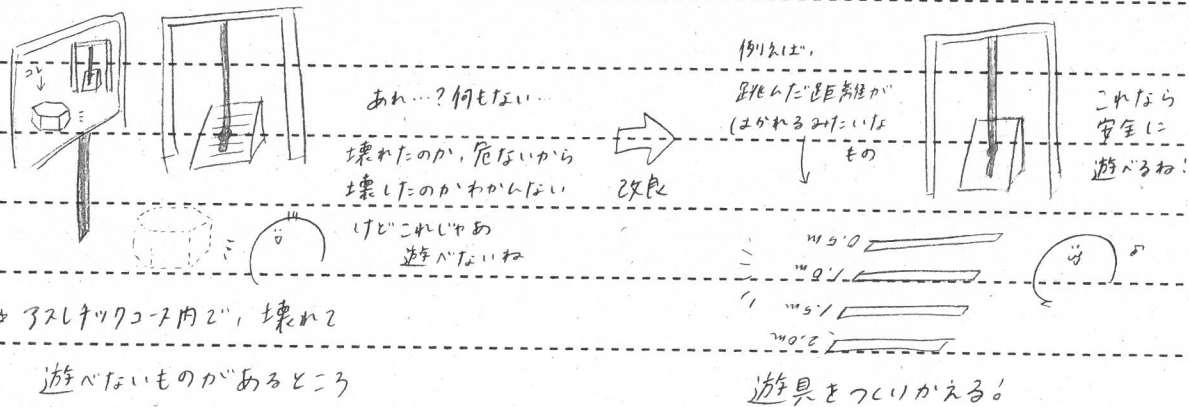
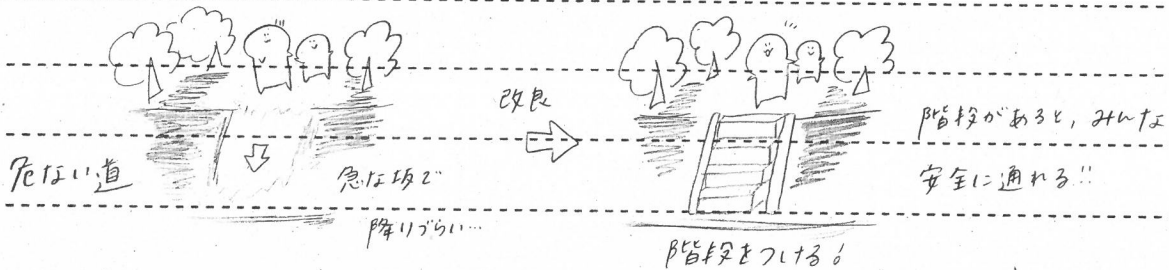
a, フィールドアスレチックで遊ぶときに、古いものたりないと感じることがあり、種類をあと数種類増やしてみてもどうだろうか。

b, 遊具が壊れていて遊べないものがあったり、すべってしまうところがあったりして危険に感じることがあるため、伊予市の木材を使って修理、改良すれば良いと思う。

安心・安全に楽しめる場所にしたい!

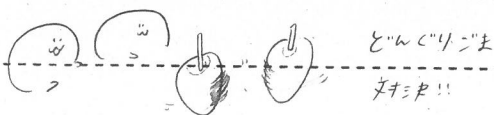
例えば、

- アスレチック途中の2つのな場にも遊具をつくる。
- 足元が危険な道に、木で階段やスロープなどをつくり、小さな子供や高齢者でも通りやすいようにする。(急な坂道や、道幅が狭くて落ちる可能性がある所)



② 自然を利用した工作や植林などのイベントを行う

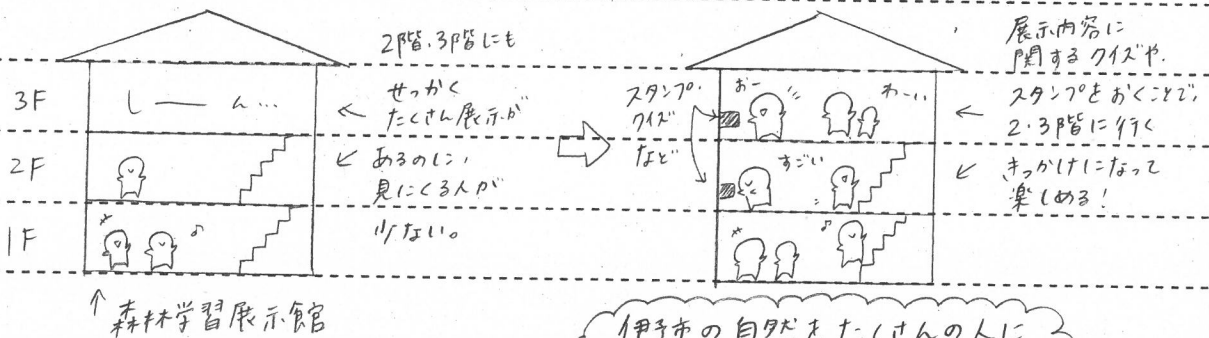
a. 森林学習展示館には、木で作られたおもちゃがたくさんあるため、それを作ることもできる体験に加え、作ったおもちゃを使って何かと競うなどのイベントを行ってみるのはどうか。小さな子供でも楽しく自然に興味をもってもらえると思う。



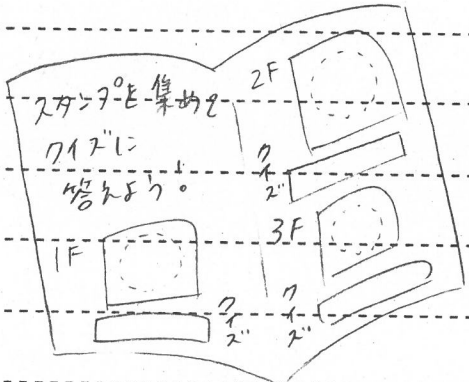
《具体的な企画内容》

b. 森林学習展示館には、2階に展示室、3階にラウンジ、休憩室などがある。しかし、階段を上ってこれらの展示をわざわざ見に来る人は少ないのではないかと思います。

○ もっと多くの人に展示パネルや模型を見せようために、スタンプラリーやクイズラリーを行えばどうか。森林のしくみや働き、えびね森林公園に存在する野生の動物の展示などが見学でき、楽しみながら伊予市の自然に親しんでもらえるのではないかと。



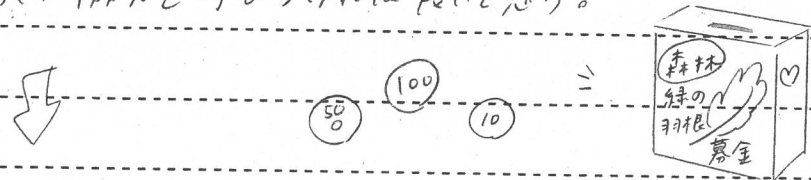
伊予市の自然をたしげんの人に 知ってもらい、好きになってもらう!



← スタンプ・クイズカードの例  
大人用・子供用のクイズをつくり、  
様々な年代の人に興味をもってもらい!

(全問正解で葉っぱのシールや花の種など、自然と関係するような景品をあげるとか。)

c. これからもずっとこの美しい森林を保護していくため、緑の募金に力を入れる。  
何か所にも募金箱をおき、協力を呼びかければ良いと思う。

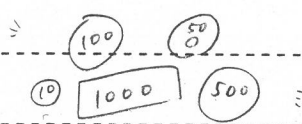


d. 植林イベントを行い、この募金で集まったお金で木のなえを  
みんなが植えていくのはどうか。緑を増やすということにもなり、そして来てくれた  
人の心にも、緑を守り育てていこうという気持ちか芽生えるのではないだろうか。

いつまでも伊予市の素晴らしい自然を残していってほしい!

《具体的な企画内容》

募金が集まったお金



植林用の



なえを買う

植林イベント!



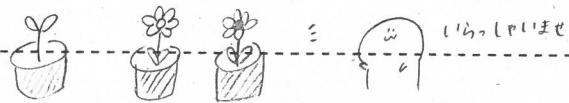
植林イベント!

伊予市の自然を  
育てていく!

③ 実習用苗畑、昆虫観察飼育施設で見学、販売ができるようにする

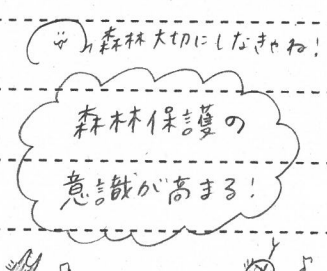
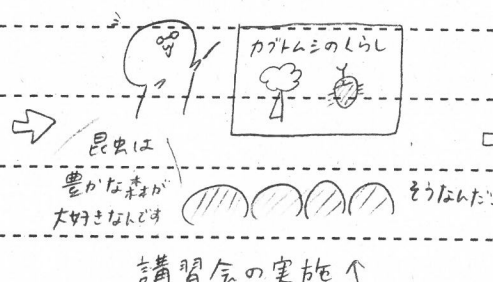
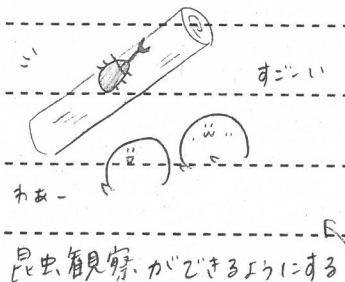
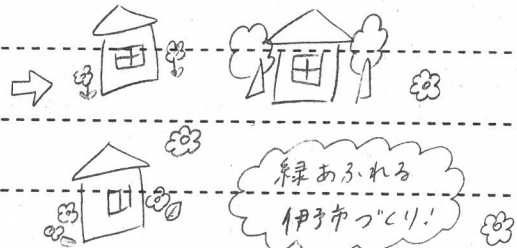
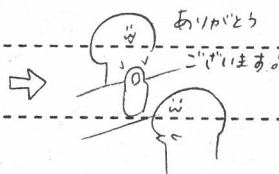
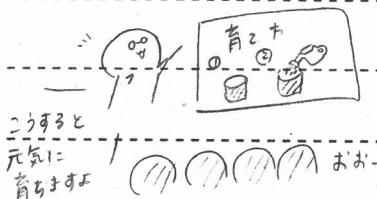
a. キャンプ場や森林学習展示館とは反対側にあるため、あまり知られておらず、

利用者も少ないと思う。だから、もっと活用するために、草花の販売・見学と昆虫の見学をすればどうか。



b. 販売・見学と同時に、栽培方法を学ぶ講習会などを開いてみればどうか。

たくさんの人に緑について興味をもってもらえ、家庭でも育てようという気持ちになると思う。環境緑化につながる。

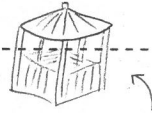


④ アスレチックの途中、ウォーキング、ランニングコース途中の休憩所を増やす

えひめ森林公園には、たんれんコースやらくらくコース、眺望コースなど多くの道が整備されており、様々な景色が楽しめるようになっている。しかし、中には急な坂道や長い道のりがあり、疲れしてしまう。そのため、今ある休憩所をいくつか増やし、運動が苦手な人でもゆっくり楽しみながら体を動かせるようにしたい。

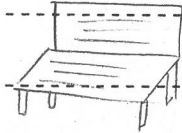
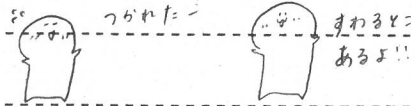
《具体的な企画内容》

屋根つきの  
こんな休憩所



例えば、

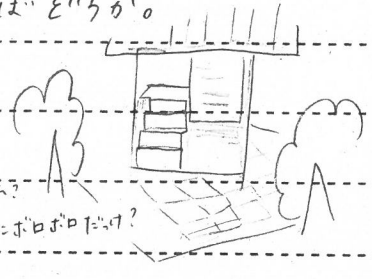
- 第1林間広場・第2林間広場には、休憩できる椅子や机が少ししか設置されていない。この休憩所の数を増やせば、もっとたくさんの方が広場を楽しく使えるのではないかと。



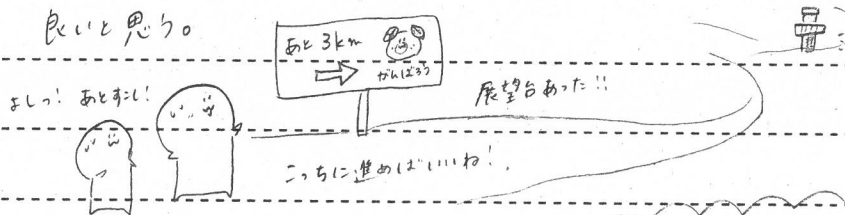
⑤ 頂上の展望台を美しくする、頂上までの案内看板を設置する

- a. 谷上山の頂上には展望台があり、伊予市の町並や海までが一望できるようになっている。望遠鏡まで設置されているので景色を楽しむことができる。しかし、その展望台は全体的に古く、階段も急で足場が危険に感じたことがある。だから、展望台を新しくつくりかえる、もしくは修理をすればどうか。

安全になり、よりいっそう景色を楽しむのではないかと。



- b. 森林公園内には様々な道があるが、頂上までの道のりがわかりづらいと感じる人もいるのではないかと。だから、頂上までの道のりに案内看板を設置すれば良いと思う。



伊予市の美しい風景を  
もっとたくさんの人に見てほしい!!

### 《実施にあたっての問題点》

1. ① アスレチックを増やしたり修理する, ② イベント, ④ 庁舎建設, ⑤ 展望台建設もしくは修理, の費用がたいへんかかること。
2. ② イベント, ③ 見学・販売, 講習会の人がたいへんいること。

### 《ふるさと創造計画 企画書を作成を通して考えたこと・思ったこと》

私は、この総合的な学習の時間で活動する前は、ふるさとについてなんか考えたこともありませんでした。私は生まれたときから伊予市に住んでいる訳ではないけれど、それも10年以上は伊予市で暮らしてきました。だから今あるこの伊予市の現状が「当たり前だ」と思っていて、もっとこうしたいとか、ここがこんなふうになったらいいとかはあまり気にしていませんでした。でも、この学習で改めて自分たちが住む地域やそのまわりで何か自分たちにも貢献ができることはないかな、と考えることができて、こうやって最終的には自分のアイデアをまとめた企画書という形までたどり着けたので、すごく嬉しかったです。この内容が本当に実現するのは分かりませんが、伊予市の現状と見つめ直して、もっと良くしようと活動できただけで、自分もやっと伊予市の一員になれた感じがして、やってよかったと思えました。私は最初、未来の伊予市をプロデュースしよう！と言われても何も思いつかず、いまは何かしたいのがよく分かりませんでした。でも少しずつ理想の伊予市を想像していろいろな案を考えたうち、楽しんで取り組めるようになりました。また「ふるさと」という実感はあまりないですが、これからも伊予市のために活動している人の力になったり、自分自身が伊予市の力になったりできたらいいなと思います。いつまでも伊予市を大切にしていきたいです。